

特集 I

営農管理システム「Z-GIS」が運用開始

現在、組合員の高齢化や労働力不足により地域の担い手に農地が集積し、ひとつの経営体が管理する農地が増加し、農地や作付け状況、作業計画、作業記録など、圃場の管理が煩雑となり、担い手や生産法人にとって負担となっております。

全農では、様々なデータを地理情報と結びつけて視覚的に表現するGIS（地理情報システム：Geographic Information System）を利用して、多様な営農情報を管理する新たなシステム「Z-GIS」を開発し、4月25日に運用を開始しました。

この「Z-GIS」は、圃場の所有者や栽培作物、作業記録などのデータを入力すると、インターネット上の地図にその情報を表示させることができるシステムです。システムの特徴としては次のとおりです。

(1) 農家や農業法人、JAで

広く使われている表計算ソフト「Microsoft Excel」を使用することで、「Z-GIS」への入力を簡便にするとともに、他のシステムとの連携が容易です。

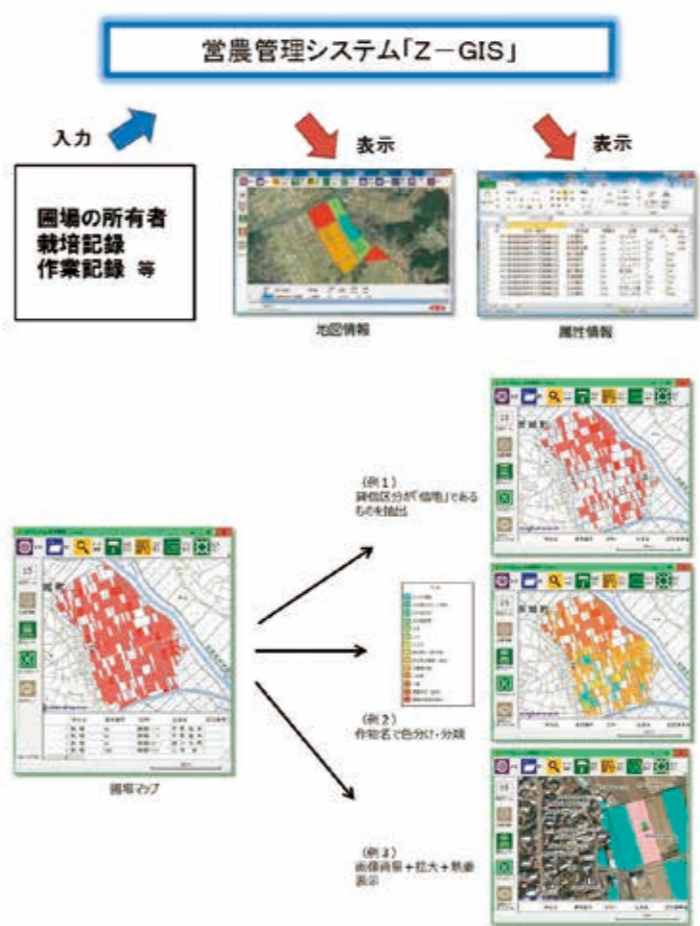
(2) 数多くある圃場のなかから借地だけ表示する、作物名で地図を色分けするなど、様々な営農情報を地図上に表現することがができます。また地番や品種などの情報をテキストで地図上に表示することも可能です。

(3) 地図のプリントアウト、営農情報を表示した地図は自在にプリントアウトすることができます。大判のプリンタがあれば、A1版やA2版への印刷も可能となります。

(4) クラウドストレージによるファイルの保管・共有、「Z-GIS」で作成したデータは、サービスに付属するクラウドストレージに保管するので、データはパソコン、スマート

フォンなどのデバイスで利用することができ、例えば「Z-GIS」の地図をスマートフォンで確認しながら圃場巡回を行い、その場で生育状況を管理し収量アップを目指す使い方が可能となります。

今後、多くの圃場を管理する農家や農業生産法人、集落営農組織に対し、圃場の一括管理の手助けになるよう進めてまいります。



特集 II

農家手取り最大化の取組みについて



いちご光合成促進機

有や体制の構築、役割分担の明確化を図り、JA役員も参加したプロジェクト会議を定期的に開催しております。

今年度は取

全農は農業者のさらなる所得アップと、持続可能な営農を確立するための取組みを始めており、今年度が3年目の取組みとなります。この取組みはモデルJA・モデル経営体を設定し、そのJA・担い手の実情に応じた取組みメニューを設定し、全農・JAが一体となって農家の手取り最大化を進めております。

福島県内ではJAふくしま未来・JA会津よつばにモデルJAになつていただき、取組みの目的の共

組み3年目というところで昨年度までの取組みをさらに拡大するべく、農家手取り最大化実践事項の3つの柱である①トータル生産コスト低減、②大規模営農モデル実証による担い手経営改善、③人材育成の諸課題に対してそれぞれの実践メニューを提案し、確認しました。

1つ目のトータル生産コスト低減の実践については、両JAの実態に合わせた実践メニューとして、物材費・労働費・生産性向上につながる内容を設定し、それぞれに

数値目標を明確にして進めることとしました。

2つ目の大規模経営モデル実証による担い手の経営改善は、モデル経営体として昨年度に引き続き相馬市の「合同会社飯豊ファーム」さん、会津坂下町の「(株)T-Farming」さんを選定し、それぞれの経営体に関連する実践メニューの実証と経営実態調査に協力いただき、取組みを進めていきます。

3つ目の人材育成については、営農指導員研修や担い手支援担当者研修会の充実、JGAP指導員研修等、多くの体系的な人材育成プログラムの受講を提案しました。

今年度、これらを確認し、定期的な検証と課題整理をしながら、農家手取り最大化の実践に向け、両JA・モデル経営体と連携して事業の実証に取り組んでまいります。



きゅうり自動灌水システム



きゅうり自動灌水システム圃場